

3D プリンター活用によるプロセスイノベーションの今 ～アナログとデジタルの融合による革新的作業効率の変化について～

小澤謙太

急速な少子高齢化の中、世界に類を見ない超高齢化時代へ足を踏み入れた昨今、我々歯科技工業界でも様々な問題が浮き彫りになってきた。募集定員に満たずに軒並み閉鎖される歯科技工専門学校が増え、卒業生が減っている。それに加えて、現職歯科技工士の高齢化や、離職率の高さなどが挙げられる。そんな中、2014年にCAD/CAM冠が保険収載されて9年が過ぎ、今やCAD/CAM冠やCAD/CAMインレーは歯冠修復にとって当たり前の補綴物になっているが、義歯はどうであろう。今回は、義歯製作工程がデジタル化によってどのように変化したのかを、弊社の取り組みと共に現状を報告しようと思う。

弊社では3Dプリンターを活用して4年が経った。デンチャー部門はデジタル化によって1日の仕事の流れが劇的に変化した。毎日遅くまで仕事に追われていく日々を従業員と共に考え、働き方改革に立ち向かうべく、なんとか生き残る方法を模索してきた。その結果が作業時間の短縮や品質の安定化、そして従業員の意識改革に繋がっている。デジタル化によって新しい可能性が見えてきたこれからの歯科技工業界をより魅力的にするため、共に横で繋がり協力してこの時代に乗り越えていきたいと考えている。